

## 重要文化財宇土櫓・続櫓周辺石垣履歴・被害状況把握図(H442)

熊本城調査研究センター作成

令和元年(2019)7月12日石垣・構造合同WG資料に加筆

熊本市 2020 「第7章付論 第1節 熊本城の石垣変遷」

『特別史跡熊本城跡総括報告書 調査研究編』第2分冊刊行後に詳細把握

## 《石垣履歴把握について》

①熊本城石垣 4期(1611~1624年頃)【構築当初】

②熊本城石垣 6期(1632~1871年)【修理1】

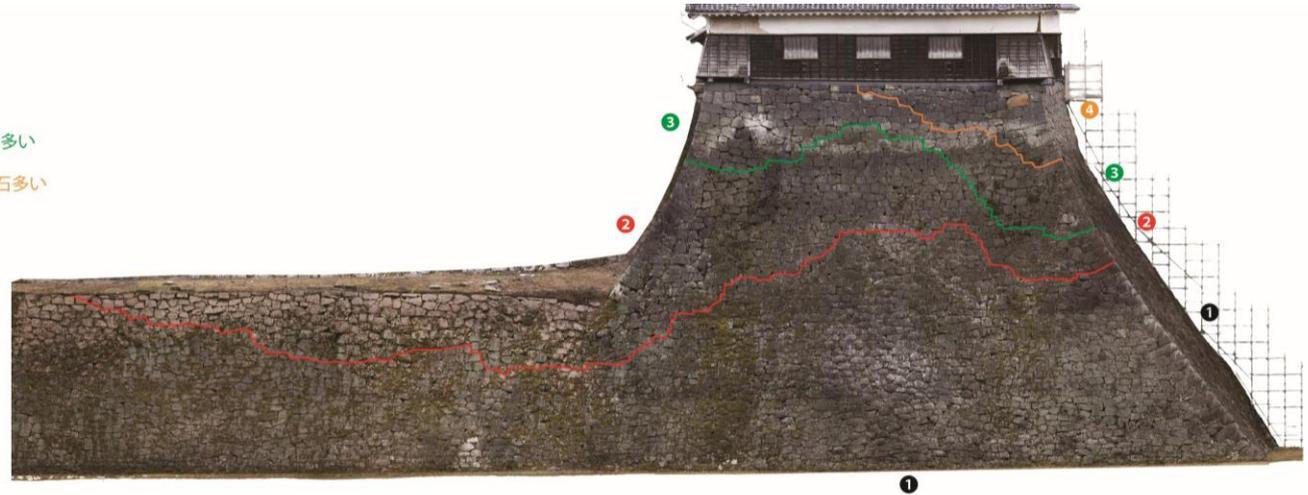
築石部:横目地通りにくい→非方形を呈した築石を多く含む

③熊本城石垣 6期(1632~1871年頃)【修理2】

築石部:横目地通らない→サイズが不統一な方形を呈した築石多い

④熊本城石垣 6期(1632~1871年頃)【修理3】

築石部:横目地通りにくい→サイズが不統一な方形を呈した築石多い



H442(北面)

オルソン写真【石垣履歴図】

## 《参考:現存櫓履歴》 ※熊本市1990・2016報告書より

元禄(1688~1704) 屋根吹替(元禄銘瓦)

宝永(1704~1711) 屋根吹替(宝永銘瓦)

宝暦(1751~1764) 屋根吹替(宝暦銘瓦)

享保5年(1720) 木部部分修理(垂木墨書)

文政9年(1826) 木部部分修理(ネコギ墨書)

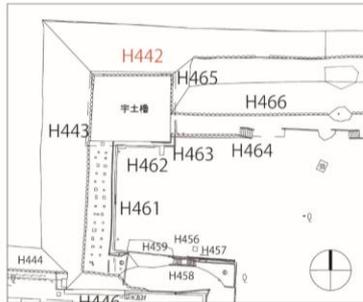
明治17年(1884) 大規模?改修(明治十七年銘瓦)陸軍修理

昭和2年(1927) 五階櫓解体修理・続櫓半解体修理・五階櫓基礎コンクリ・鋼製筋違施工(昭和2年銘棟札)

昭和29~32年(1954~1957) 五階櫓半解体修理 続櫓解体修理・礎石据直し 石垣修理なし

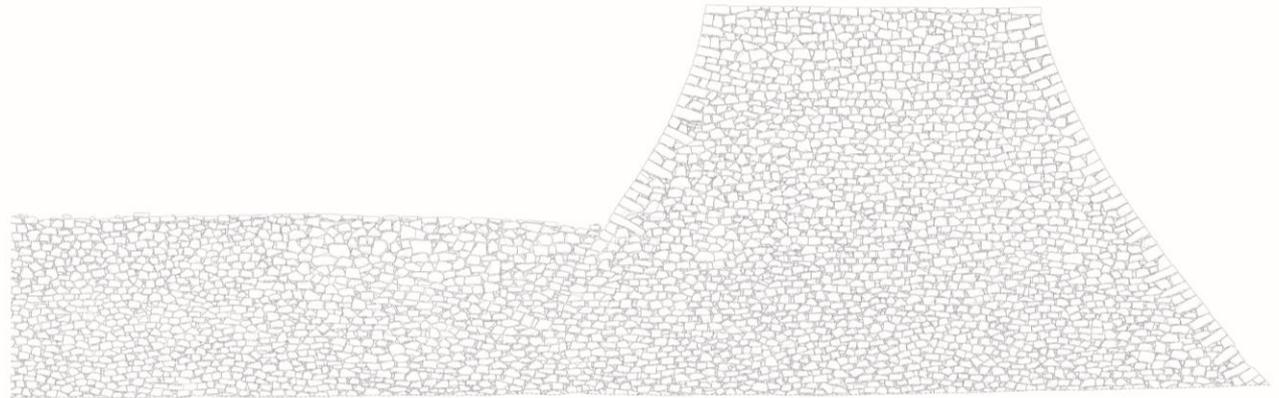
昭和44年(1969) 白蟻駆除・五階天井及び四階一階柱一部取替

昭和60年~平成2年(1985~1990) 半解体修理



## 被害状況凡例

- :変形(膨らみ・縮み)
- :間詰石抜け
- :突出・ズレ
- :割れ・ヒビ
- :凹み
- :新補石材
- :剥落
- :今回の崩落ライン



H442(北面)

被害状況図

※被災直後の被害調査では「被害なし」  
 ※近接での詳細調査は未実施。

## 重要文化財宇土櫓・続櫓周辺石垣履歴把握図(H442)拡大版

熊本城調査研究センター作成

令和元年(2019)7月12日石垣・構造合同WG資料に加筆

熊本市 2020 「第7章付論 第1節 熊本城の石垣変遷」

『特別史跡熊本城跡総括報告書 調査研究編』第2分冊刊行後に詳細把握



## 《石垣履歴把握について》

- ①熊本城石垣 4期(1611～1624年頃)【構築当初】
- ②熊本城石垣 6期(1632～1871年)【修理1】  
築石部:横目地通りにくい→非方形を呈した築石を多く含む
- ③熊本城石垣 6期(1632～1871年頃)【修理2】  
築石部:横目地通らない→サイズが不統一な方形を呈した築石多い
- ④熊本城石垣 6期(1632～1871年頃)【修理3】  
築石部:横目地通りにくい→サイズが不統一な方形を呈した築石多い

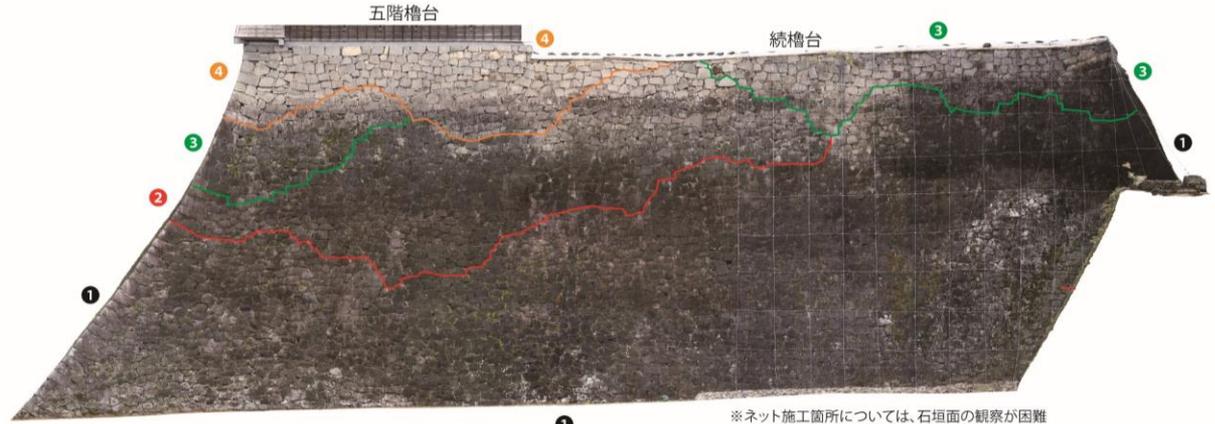
重要文化財宇土櫓・続櫓周辺石垣履歴・被害状況把握図(H443)

熊本城調査研究センター作成

令和元年(2019)7月12日石垣・構造合同WG資料に加筆  
 熊本市 2020 「第7章付論 第1節 熊本城の石垣変遷」  
 『特別史跡熊本城跡総括報告書 調査研究編』第2分冊刊行後に詳細把握

《石垣履歴把握について》

- ①熊本城石垣 4期(1611~1624年頃)【構築当初】
- ②熊本城石垣 6期(1632~1871年)【修理1】  
 築石部:横目地通らない→非方形を呈した築石を多く含む  
 隅角部:方形を呈した角脇石があり築石部と明確に分離
- ③熊本城石垣 6期(1632~1871年頃)【修理2】  
 築石部:横目地通らない→サイズが不統一な方形を呈した築石多い
- ④熊本城石垣 6期(1632~1871年頃)【修理3】  
 築石部:横目地通りにくい→サイズが不統一な方形を呈した築石多い

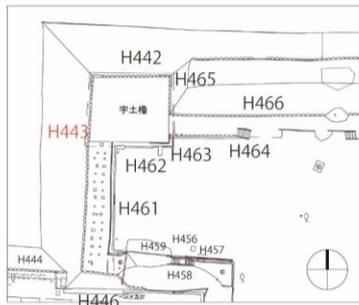


H443(西面)  
オルソ写真

※ネット施工箇所については、石垣面の観察が困難であったため、修理履歴検討精度は低い。

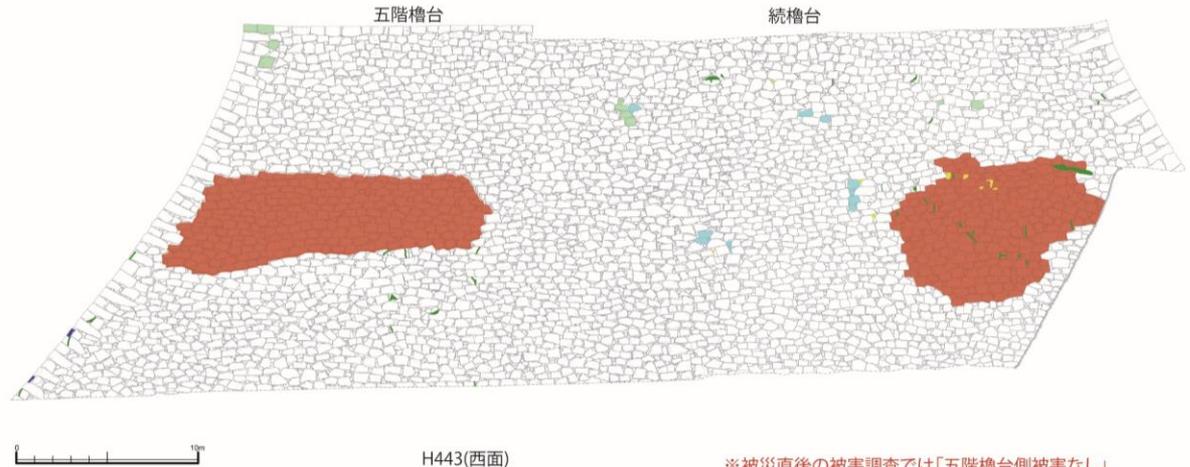
《参考:現存櫓履歴》 ※熊本市1990・2016報告書より

- 元禄(1688~1704) 屋根吹替(元禄銘瓦)
- 宝永(1704~1711) 屋根吹替(宝永銘瓦)
- 宝暦(1751~1764) 屋根吹替(宝暦銘瓦)
- 享保5年(1720) 木部分修理(垂木墨書)
- 文政9年(1826) 木部分修理(ネコギ墨書)
- 明治17年(1884) 大規模?改修(明治十七年銘鬼瓦)陸軍修理
- 昭和2年(1927) 五階櫓解体修理・続櫓半解体修理・五階櫓基礎コンクリ・鋼製筋違施工(昭和2年銘棟札)
- 昭和29~32年(1954~1957) 五階櫓半解体修理 続櫓解体修理・礎石据直し 石垣修理なし
- 昭和44年(1969) 白蟻駆除、五階天井及び四階・一階柱一部取替
- 昭和60年~平成2年(1985~1990) 半解体修理



被害状況凡例

- :変形(膨らみ・縮み)
- :間詰石抜け
- :突出・ズレ
- :割れ・ヒビ
- :凹み
- :新補石材
- :剥落
- :今回の崩落ライン



H443(西面)  
被害状況図

※被災直後の被害調査では「五階櫓台側被害なし」  
 ※近接での詳細調査は五階櫓台側未実施。

## 重要文化財宇土櫓・続櫓周辺石垣履歴把握図(H443)拡大版

熊本城調査研究センター作成

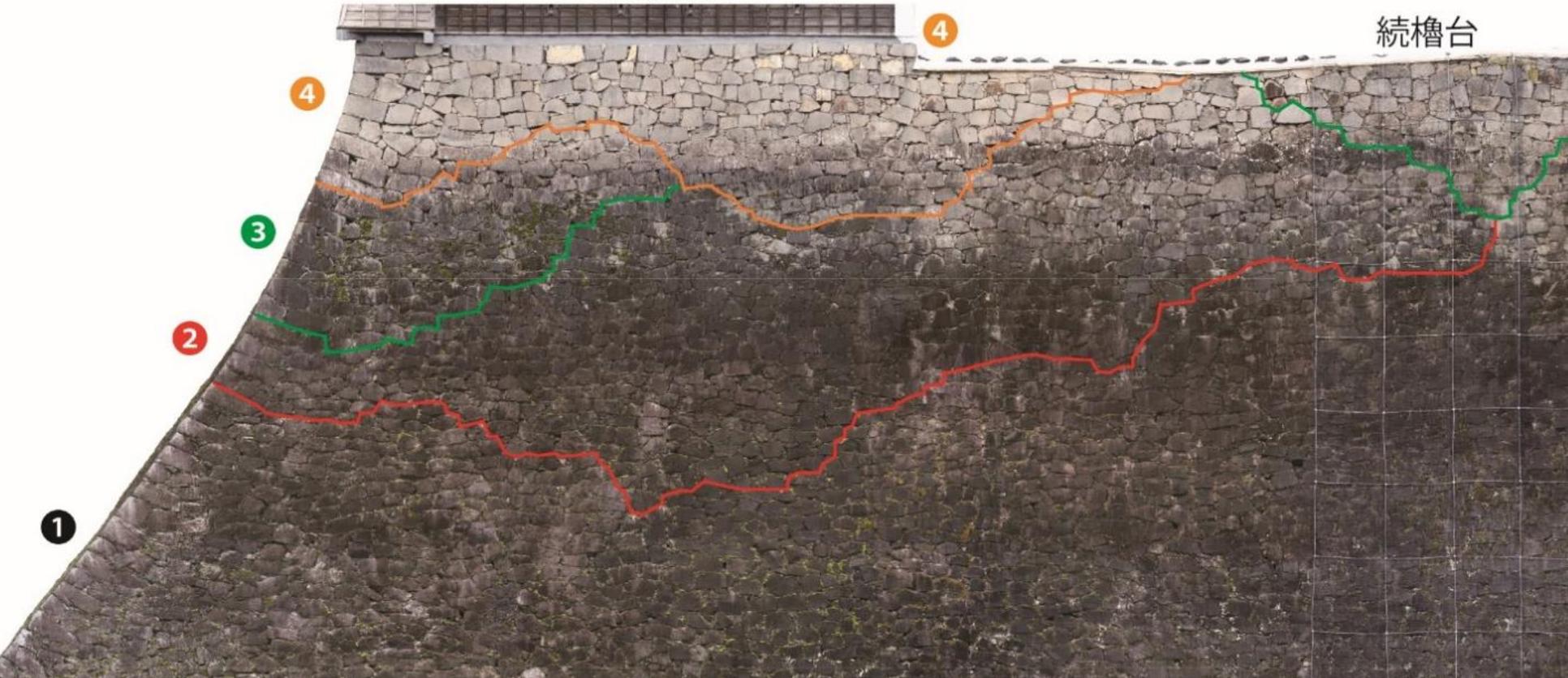
令和元年(2019)7月12日石垣・構造合同WG資料に加筆  
 熊本市 2020 「第7章付論 第1節 熊本城の石垣変遷」  
 『特別史跡熊本城跡総括報告書 調査研究編』第2分冊刊行後に詳細把握

## 《石垣履歴把握について》

- 熊本城石垣 4期(1611～1624年頃)【構築当初】
- 熊本城石垣 6期(1632～1871年)【修理1】  
 築石部:横目地通らない→非方形を呈した築石を多く含む  
 隅角部:方形を呈した角脇石があり築石部と明確に分離
- 熊本城石垣 6期(1632～1871年頃)【修理2】  
 築石部:横目地通らない→サイズが不統一な方形を呈した築石多い
- 熊本城石垣 6期(1632～1871年頃)【修理3】  
 築石部:横目地通りにくい→サイズが不統一な方形を呈した築石多い

## 五階櫓台

## 続櫓台

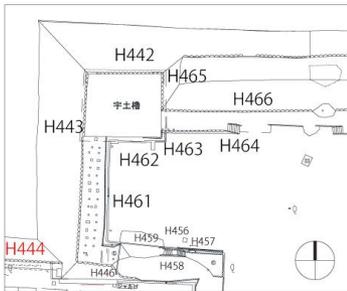
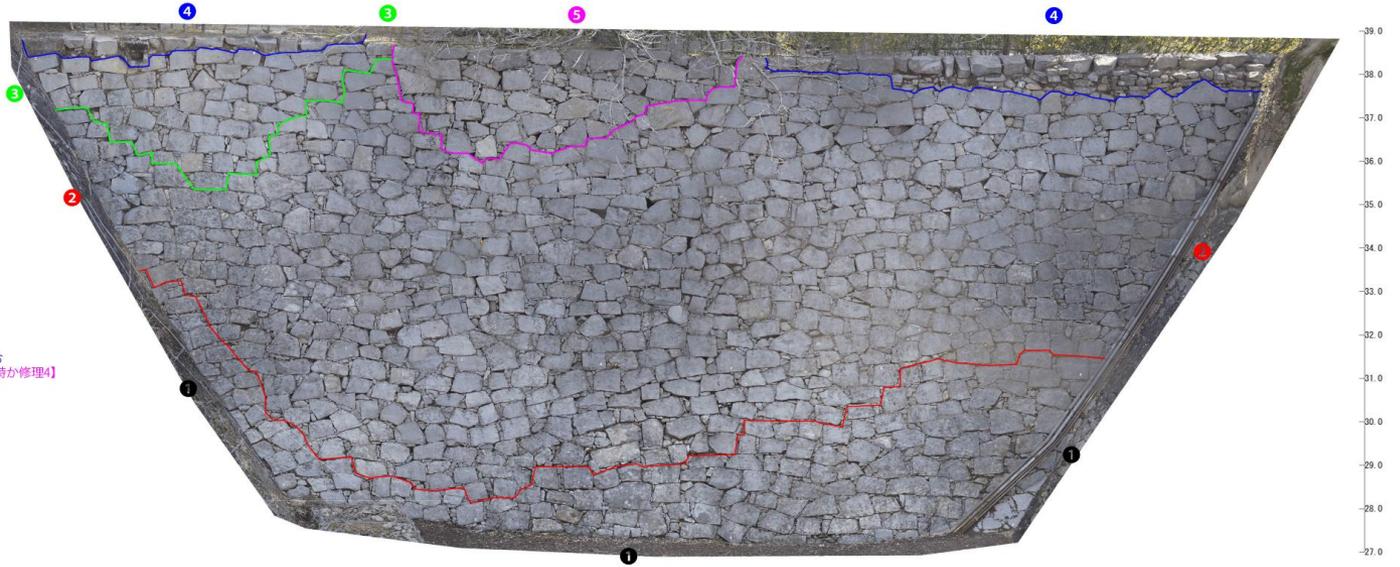


重要文化財宇土櫓・続櫓周辺石垣履歴把握図(H444)

熊本城調査研究センター作成

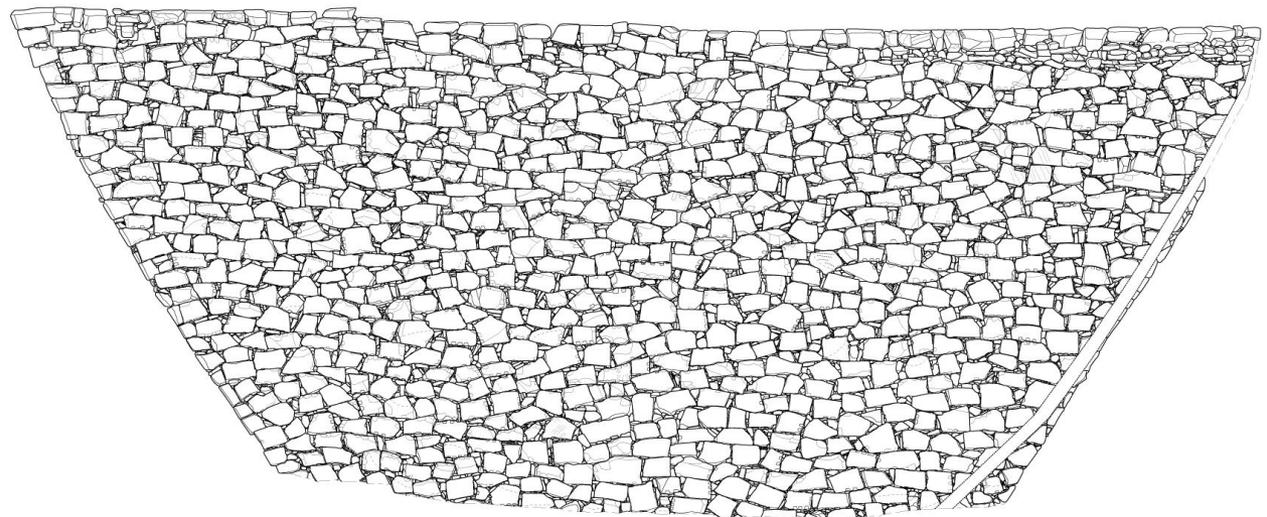
《石垣履歴把握について》

- ①熊本城石垣4期(1611~1624年頃)【構築当初】
- ②熊本城石垣6期(1632~1871年)【修理1】  
築石部:横目地通らない→非方形を呈した築石を多く含む
- ③熊本城石垣6期(1632~1871年以降)【修理2】  
築石部:横目地通りやすい→方形を呈した築石が多い
- ④熊本城石垣7期(1902年以降)【修理3】  
石垣上部の土壁がなくなり、城内側に築石正面を向ける石垣を積む
- ⑤熊本城石垣7期(1902年以降)か、その後の文化財石垣【修理3と同時に修理4】  
築石部:横目地通らない、築石間に間詰石等が多い傾向



被害状況凡例

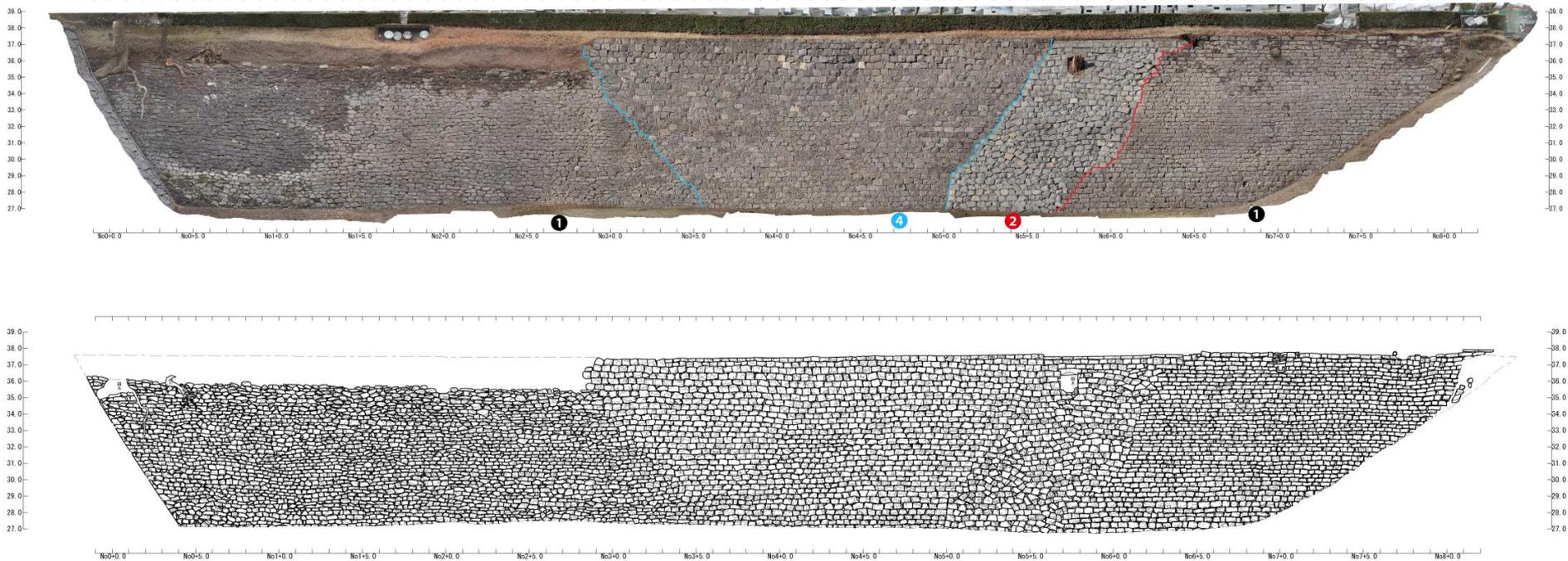
● (赤)	:変形(膨らみ・緩み)	● (黄)	:間詰石抜け
● (緑)	:突出・ズレ	○ (白)	:割れ・ヒビ
● (青)	:凹み	● (茶)	:新補石材
● (紫)	:剥落	— (赤)	:今回の崩落ライン



## 重要文化財宇土櫓・続櫓周辺石垣履歴把握図(H445)

## 《石垣履歴把握について》

- ①【構築当初】熊本城石垣7期(1871~1950年頃) ※明治22年(1889)以降~昭和28年(1953)以前  
築石部:凝灰岩石材を使用。横目地通る→サイズ統一の方形を呈した築石を積む。間詰石ほぼなし。
- ②【修理1】昭和28年(1953)災害復旧による修理  
築石部:安山岩石材を使用。横目地通らない谷積み状→サイズ統一の方形を呈した築石を積む。間詰石が極端に少ない。
- ③【修理2】昭和50年(1975)災害復旧による修理→昭和57年(1975)に崩落
- ④【修理3】昭和57年(1975)災害復旧による修理  
築石部:凝灰岩石材を主体とするが、一部安山岩石材を使用。横目地通る→サイズ統一の方形を呈した築石を積む。間詰石ほぼなし。



※一部に変状が認められるが、平成28年熊本地震被害によるものかは不明。

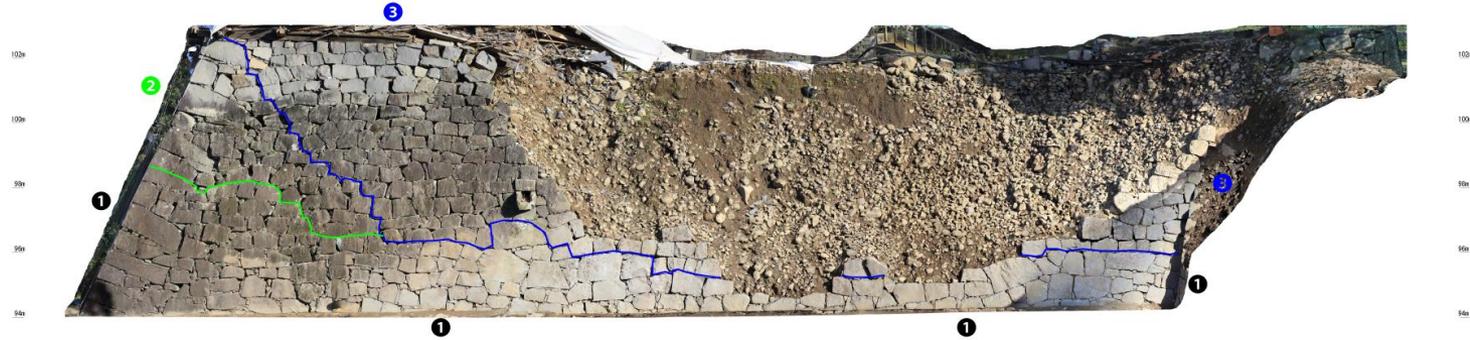
重要文化財宇土櫓・続櫓周辺石垣履歴・被害状況把握図(H446)

熊本城調査研究センター作成

令和元年(2019)7月12日石垣・構造合同WG資料に加筆  
 熊本市 2020 「第7章付論 第1節 熊本城の石垣変遷」  
 『特別史跡熊本城跡総括報告書 調査研究編』第2分冊刊行後に詳細把握

《石垣履歴把握について》

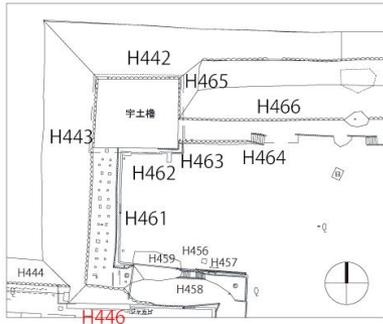
- ①熊本城石垣4期(1611~1624年頃)【構築当初】
- ②熊本城石垣6期(1632~1871年頃)【修理1】  
 築石部:横目地通らない→サイズが不統一な方形を呈した築石多い
- ③熊本城石垣7期(1871~1950年頃)【修理2】 ※明治22年(1889)以降の可能性大  
 築石部:横目地通る→方形を呈した築石のみ、間詰石ほぼなし



H446(南面)  
 オルソ写真

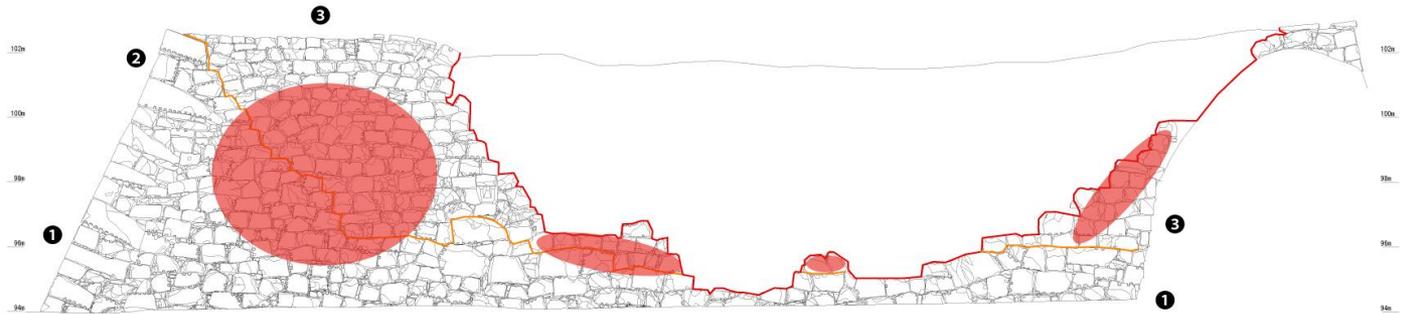
《参考:現存櫓履歴》 ※熊本市1990・2016報告書より

- 元禄(1688~1704) 屋根吹替(元禄銘瓦)
- 宝永(1704~1711) 屋根吹替(宝永銘瓦)
- 宝暦(1751~1764) 屋根吹替(宝暦銘瓦)
- 享保5年(1720) 木部部分修理(垂木墨書)
- 文政9年(1826) 木部部分修理(ネコギ墨書)
- 明治17年(1884) 大規模?改修(明治十七年銘鬼瓦)陸軍修理
- 昭和2年(1927) 五階櫓解体修理・続櫓半解体修理・五階櫓基礎コンクリ・鋼製筋違施工(昭和2年銘棟札)
- 昭和29~32年(1954~1957) 五階櫓半解体修理 続櫓解体修理・礎石据直し 石垣修理なし
- 昭和44年(1969) 白蟻駆除、五階天井及び四階・一階柱一部取替
- 昭和60年~平成2年(1985~1990) 半解体修理



被害状況凡例

●:変形(膨らみ・緩み)	●:間詰石抜け
●:突出・ズレ	○:割れ・ヒビ
●:凹み	●:新補石材
●:剥落	—:今回の崩落ライン



H446(南面)  
 被害状況図